

# 令和5年度第1回鶴ヶ島市文化財保護審議委員会会議次第

令和5年6月28日(水)

午後2:00～

鶴ヶ島市中央図書館 視聴覚室

## 1 開会

## 2 文化財保護審議委員会会議

### 【協議事項】

(1) 令和5年度文化財保護審議委員会事業計画(案)について ……資料1

### 【報告事項】

(1) 市指定天然記念物「慈眼寺の黒這松」樹勢関係について ……資料2

(2) 県指定天然記念物「脚折のケヤキ」保護保全事業について ……資料3

(3) 市指定有形文化財「若葉台遺跡及び羽折遺跡出土奈良三彩」の活用について ……資料4

(4) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した事業の実施について ……資料5

## 3 その他

## 4 閉会

## 令和5年度鶴ヶ島市文化財保護審議委員会事業計画(案)

期 日	件 名	会 場	備 考
6月28日	第1回審議委員会 ・ 令和5年度文化財保護審議委員会事業計画 について ・ 事務局からの報告	中央図書館 視聴覚室	
8月2日 ～ 8月3日	第68回文化財講習会 内容 災害に学ぶ ー関東大震災から100年を 迎えてー	さいたま共済会館 第2ホール	
(予定) 10月21日 ～ 10月29日	文化財展 (仮)鶴ヶ島市文化財整理室所蔵品展	(予定) 文化財整理室	
未定	令和5年度文化財研修会 内容 未定		

## (1)市指定天然記念物「慈眼寺の黒這松」樹勢関係について

## 1 慈眼寺の黒這松について

名 称	市指定天然記念物 三ツ木慈眼寺黒這松
指定年月日	昭和57年3月15日
所 有 者	慈眼寺
概 要	樹齢約300年以上といわれ、地を這うような黒松。 形としては、市内において他に比すべきものがない。 樹高 2.4m 目通り(幹周り) 1.0m 這い枝 約5.0m

## 2 今までの経過について

平成23年度から24年度にかけて、葉が黄色く変色する「葉ふるい病」が再発してしまったため、殺菌・殺虫剤散布、樹幹部の腐朽部削除、洗浄、殺菌処理、盛土除去、空気を敷設、支柱設置を内容とした樹勢回復業務を実施した。

平成25年度以降、樹木の維持管理業務のなかで松枯れに効果のある薬剤を噴霧してきたが、平成26年末に一部葉枯れが発見され、樹木医から「ハダニ吸汁害」との診断があった。樹木管理業務の回数増加と、薬剤の内容を「ダニに効果の認められるもの」に変更し、平成27年度からは薬剤噴霧の回数を増やし対応した。

## 3 指定文化財補助金交付状況について

平成21年度	事業費 189,000円	補助金額 94,500円
平成23年度	事業費 483,000円	補助金額 241,500円
平成24年度	事業費 420,000円	補助金額 210,000円

## 4 現状について

令和3年度から所有者の意向で、管理作業の実施事業所を変更した。薬剤散布についてもここ数年同じ薬剤を使用して薬剤に対する抗体ができている可能性もあり、薬品を変更して薬剤散布を行っている。

現在のところ、葉が黄色く変色する症状は見られない。

## (2) 県指定天然記念物「脚折のケヤキ」保護保全事業について

### 1 脚折のケヤキについて

名 称	県指定天然記念物 脚折のケヤキ
指定年月日	昭和7年3月31日
所 有 者	白鬚神社
概 要	樹高 約17m ※指定された当初は、樹高約36m 幹回り 訳 7m 樹齢 推定900年余

### 2 天然記念物の現状について

「脚折のケヤキ」は、昭和47年に自らの重さに耐えきれず、大枝の折損に伴い幹も半壊状態となった。それ以来、たびたび樹勢回復等の保存事業を実施している。

### 3 過去の主な保存事業等について

昭和48年度

- ・樹木保存工事(倒壊防止用支柱設置、腐食防止用シートの設置)

昭和60年度

- ・大枝2本選定及び切口銅板蓋設置

平成6年度～7年度

- ・樹勢回復業務(腐朽部除去、殺菌剤処理、剪定工、土壌改良、樹脂補填、支柱塗装修繕、ワイヤーロープ張替え)

平成18年度

- ・樹勢回復業務(樹脂剥離部分の補修、強剪定工)
- ・周辺環境整備(周辺樹木の枝降ろし、雑木伐採・伐根、土壌改良)

令和3年度

- ・樹幹上部の強剪定(軽減伐採)※自費による
- ・脚折のケヤキ保護保全事業(支柱の改修及び過去に治療した個所の再治療)  
※補助事業

### 4 今後について

現在、令和3年度の保護保全事業において確認された樹幹上部からの不定根を、紙製の筒に入れて地表面に誘導する治療を行っている。

令和6年度に、その紙製の筒の更新と不定根の状況確認を、県費補助金等を活用して実施する予定となっている。

## (3) 市指定有形文化財「若葉台遺跡及び羽折遺跡出土奈良三彩」の活用について

市指定文化財に至る経緯

- 令和3年6月23日 教育委員会にて文化財保護審議委員会に諮問することについて議決  
 令和3年6月25日 教育委員会から文化財保護審議委員会へ諮問、審議開始  
 令和4年8月8日 文化財保護審議委員会にて審議  
 令和4年8月15日 文化財保護審議委員会から教育委員会へ答申の提出  
 令和4年8月24日 教育委員会にて市の指定とすることについて議決

## 1 広報誌・市HPでの周知

- ・ 広報つるがしま2022 10月号 裏表紙(フルカラー)
- ・ 広報つるがしま2023 3月号 巻頭特集(2色刷り)

## 2 令和4年度文化財展における展示

- 実施期間：令和4年10月1日(土)～11月30日(水) 61日間  
 展示場所：鶴ヶ島市中央図書館  
 来場者数：推計2,000人

## 3 復元品 3D画像の公開

図書館HP内「デジタル郷土資料」にて3D画像を公開

点数：2点（小壺1点、托1点）

期間：令和4年10月26日～公開中

URL：[https://adeac.jp/tsurugashima-lib/top/topg/bunkazai\\_narasansai.html](https://adeac.jp/tsurugashima-lib/top/topg/bunkazai_narasansai.html)

新たな市指定文化財が誕生しました

8月24日、「若葉台遺跡及び羽折遺跡出土奈良三彩」が、鶴ヶ島市で15番目の市指定文化財となりました。

奈良三彩とは、緑・褐(黄)・白の三色で彩られる、奈良時代から平安時代にかけて作られた陶器の一種で、全国的に流通量が少なく、出土数も限定されています。埼玉県内で確認されている11点のうち4点が、鶴ヶ島市の若葉台遺跡と羽折遺跡から出土しています。

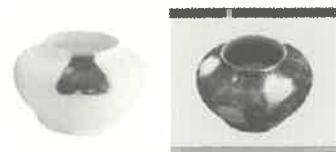


写真後列は復元品

広報つるがしま2022「10月号」

こんな大発見も！

若葉駅の北側にある「若葉台遺跡」は、鶴ヶ島で一番の大集落。奈良・平安時代に地方豪族が住んでいたと考えられる遺跡で、畿内の中央政権しか生産できない高級陶器「奈良三彩」が見つかりました。県内では11点しか見つかっていない奈良三彩ですが、この若葉台遺跡から3点、下新田の羽折遺跡から1点、市内からなんと計4点が出土しています！全て破片でしたが、中央政権との繋がりを示す貴重な資料であるため、令和4年に鶴ヶ島市の指定文化財となりました。市の図書館HP「デジタル郷土資料」から、復元品の3D画像を見ることができます。



出土した奈良三彩

奈良三彩の3Dモデル

広報つるがしま2023「3月号」

## (4) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した事業の実施について

## 4-1 長期開催・分散展示で三密を回避して行う文化財公開事業

**実施概要**

■テーマ	謎解き×周遊×文化財
■展示内容	「若葉台遺跡及び羽折遺跡出土奈良三彩」の市指定文化財への新規指定に合わせた市指定文化財の紹介
■期日	令和4年10月1日(土)～11月30日(水)
■開催日数	61日間 ※うち、8日間は中央図書館休館
■会場	①中央図書館1階ロビー ②若葉駅前出張所 ③市役所1階ロビー
■来場者数	2,000人(推定)
■完走者数	710人

## ① 各会場の展示内容

中央図書館	奈良三彩、双雀鏡、若葉台・羽折遺跡出土遺物、指定文化財パネル
鶴ヶ島市役所	脚折村道しるべ、指定文化財パネル
若葉駅前出張所	指定文化財パネル

## ② 予算・決算

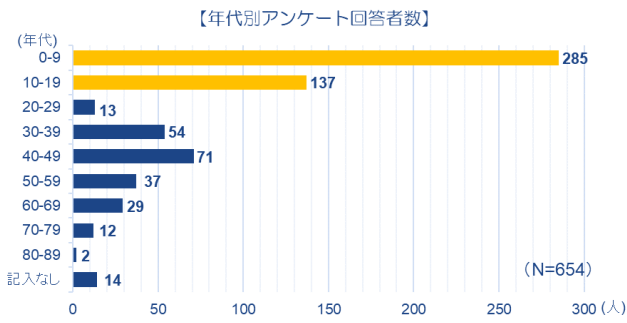
	補正予算額	決算額	発注先
復元製作	¥383,900	¥299,200	文化財ユニオン
チラシ・ポスター印刷	¥113,575	¥80,900	湘南パック
記念品(定規)製作	¥187,000	¥101,200	福島商事
展示用消耗品	—	¥18,248	福島商事

## ③ 周知方法

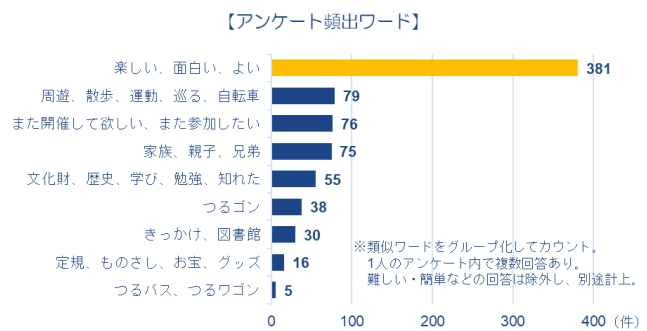
- ・小中学生全員、学童・市内施設等にチラシを配布(チラシ15,000枚、ポスター50枚)
- ・広報つるがしま2022 10月号 裏表紙(フルカラー)
- ・広報つるがしま2022 11月号 巻末ニュース(フルカラー)
- ・市公式HP・SNS、つるゴンSNS

## ④ アンケート結果の分析

- ・1,000個製作した記念品は若干余ったが、完走者710人中654人という非常に高いアンケート回答率、かつほぼ全てが好意的意見であり、高い満足度であったと言える。
- ・小学校低学年までの参加者が多数を占めるが、親世代の参加も次いで多く、コロナ禍で外出機会が減少する中、家族で出掛ける契機となったという意見が多数あった。
- ・次回開催を望む声が非常に多くあった。高齢者の参加も多く、ウォーキングや実際の文化財をめぐるイベントへの要望も寄せられた。



アンケート分析の抜粋(年代)



アンケート分析の抜粋(感想)



展示状況(中央図書館)



展示状況(奈良三彩・双雀籠)



展示状況(若葉駅前出張所)



彩色復元した奈良三彩「小壺」

**高倉獅子舞**

保存会 高倉獅子舞保存会  
種別 無形文化財  
指定日 昭和49年11月1日

文化財の概要

例年11月2日、3日に高倉日枝神社、稲荷神社、高福寺跡で奉納される獅子舞行事です。獅子舞は、獅子頭を被って舞を踊る行事で、悪いものや病気を退け、作物の実りに感謝する意味があります。獅子舞の起源は江戸時代といわれますが、市内は数カ所あった獅子舞も、現在は高倉獅子舞が唯一残るのみとなっています。

高倉獅子舞は、男獅子2頭、女獅子1頭のほか、方灯(提灯持ち)、ほら貝ふき、天狗、花笠(踊り子)、ハイオイ(案内人)、笛吹き、歌うたい、などで構成され、時にはひよっこやおおかも加わります。演目としては、「女獅子がくし」「羊がかり」があります。昭和49年、鶴ヶ島市で最初の指定文化財となりました。

鶴ヶ島市教育委員会

**十一面観音菩薩立像**

所有者 白鬚神社  
種別 有形文化財  
指定日 昭和62年12月24日

文化財の概要

白鬚神社の宝物庫に所蔵されている仏像です。高さは42cmで、製作は室町時代(1336~1573年)頃とされています。ぼろぼろの状態に彫刻してから組み上げる「寄木造り」という方法で作られています。全身が金の泥で塗られ、頭の上にはたくさんのお花、手には花の入った花瓶を持ち、花の形をした台の上に乗っています。頭部に

ある十一面の顔は、優しい顔が3面、怒った顔が3面、励ます顔が3面、笑った顔が1面とされています。これは、この世のあらゆる悩みなどからすべての人を救うため、様々な姿になるということを表しています。花瓶と足元の台は「蓮の花」で、清く正しいことを表しています。

鶴ヶ島市教育委員会

**川崎平右衛門陣屋跡**

管理会 鶴ヶ島市  
種別 史跡  
指定日 平成9年3月21日

文化財の概要

葛巻字三角原にあるお屋敷の跡です。江戸時代中期の元文年間(1736~41年)に、武蔵野の新田開発(新たに田んぼを作ること)の拠点として作られました。陣屋は、南は東京都の小金井市、北は鶴ヶ島市に作られ、この2カ所を中心に近隣82ヶ村の新田開発が行われました。ここに取組み役としてやって

来たのが川崎平右衛門です。飢饉によって苦しんでいた農民も、平右衛門の手助けによって立て直すことができました。平右衛門は農民出身ですが、この功績によって武士となり、幕府の代官となって日本各地で活躍しました。農民からは大変感謝され、各地に祠が残されており、鶴ヶ島の陣屋跡にも「川崎大明神石祠」が残されています。

鶴ヶ島市教育委員会

指定文化財紹介パネルの一部

## 4-2 文化財解説板の更新

### ① 概要

コロナ禍での運動不足が懸念されるなか、ウォーキングコース上に所在する文化財等の解説板の内、経年劣化等により痛みが激しい文化財解説板を更新した。

・更新解説板 8基

脚折のケヤキ、白鬚神社、善能寺、日枝神社、才道木庚申塔・馬頭尊縁起、高德神社、満福寺、正音寺

・撤去解説板 2基

藤金富士塚、太田ヶ谷沼

### ② 事業費(決算額)

文化財解説板更新工事 13,296,800円



更新前



更新後

## 4-3 指定文化財感染症対策支援事業

### ① 概要

市指定無形文化財高倉獅子舞の保存団体である高倉獅子舞保存会が行う感染症対策に係る経費に対して補助金を交付した。

#### 【感染症対策の内容】

従来、獅子頭に取り付ける「水引き」は、簡単には交換できず複数の演者が共用することに対して課題があった。今回の対策では、演者分の水引きを購入し、水引きが簡単に交換できるように獅子頭の取り付け部分を改良した。

### ② 事業費(決算額)

指定文化財感染症対策支援事業補助金 965,250円



購入した水引き



水引きを付けて舞う獅子舞